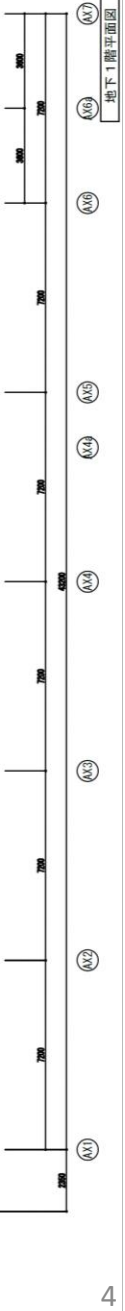
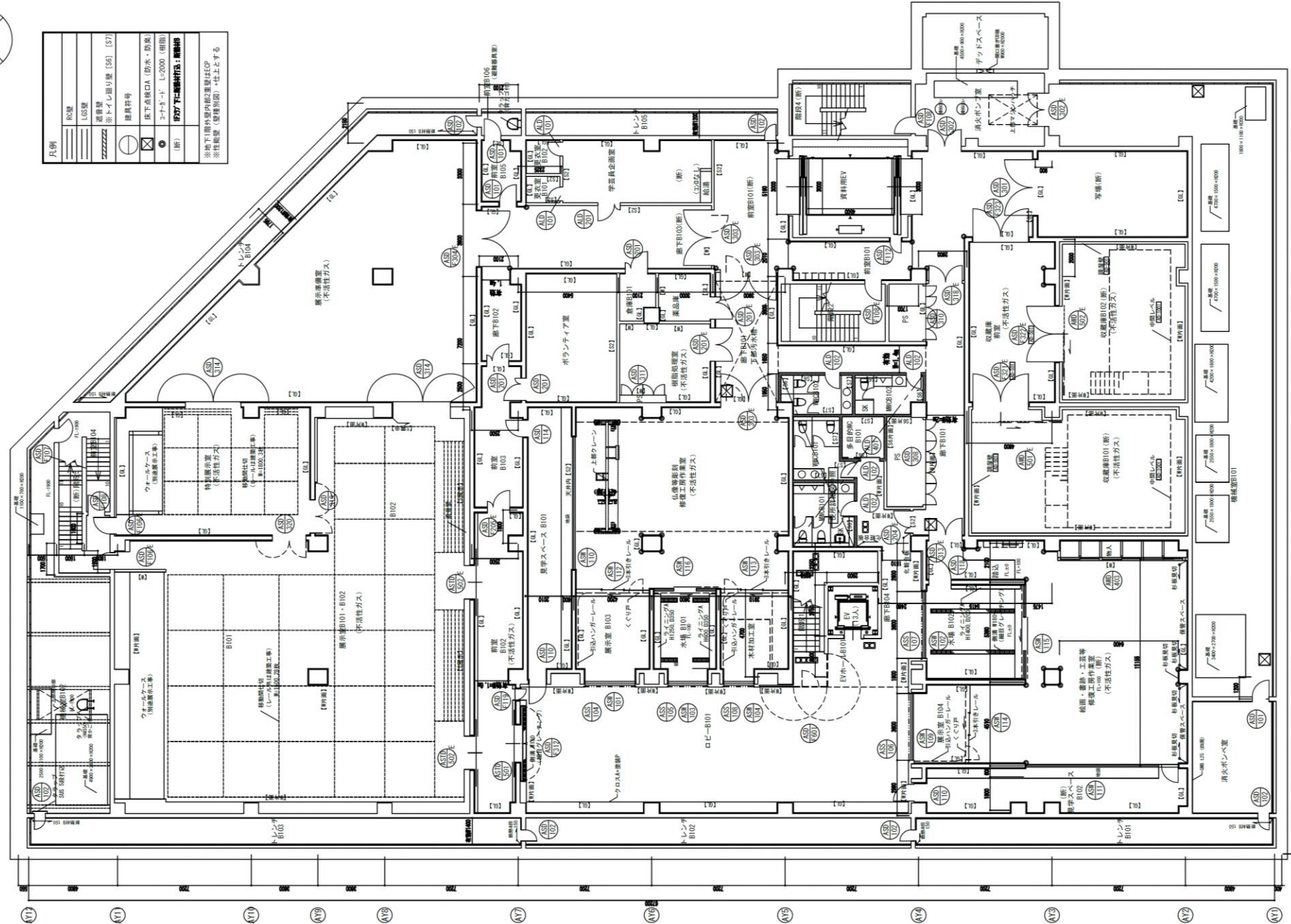


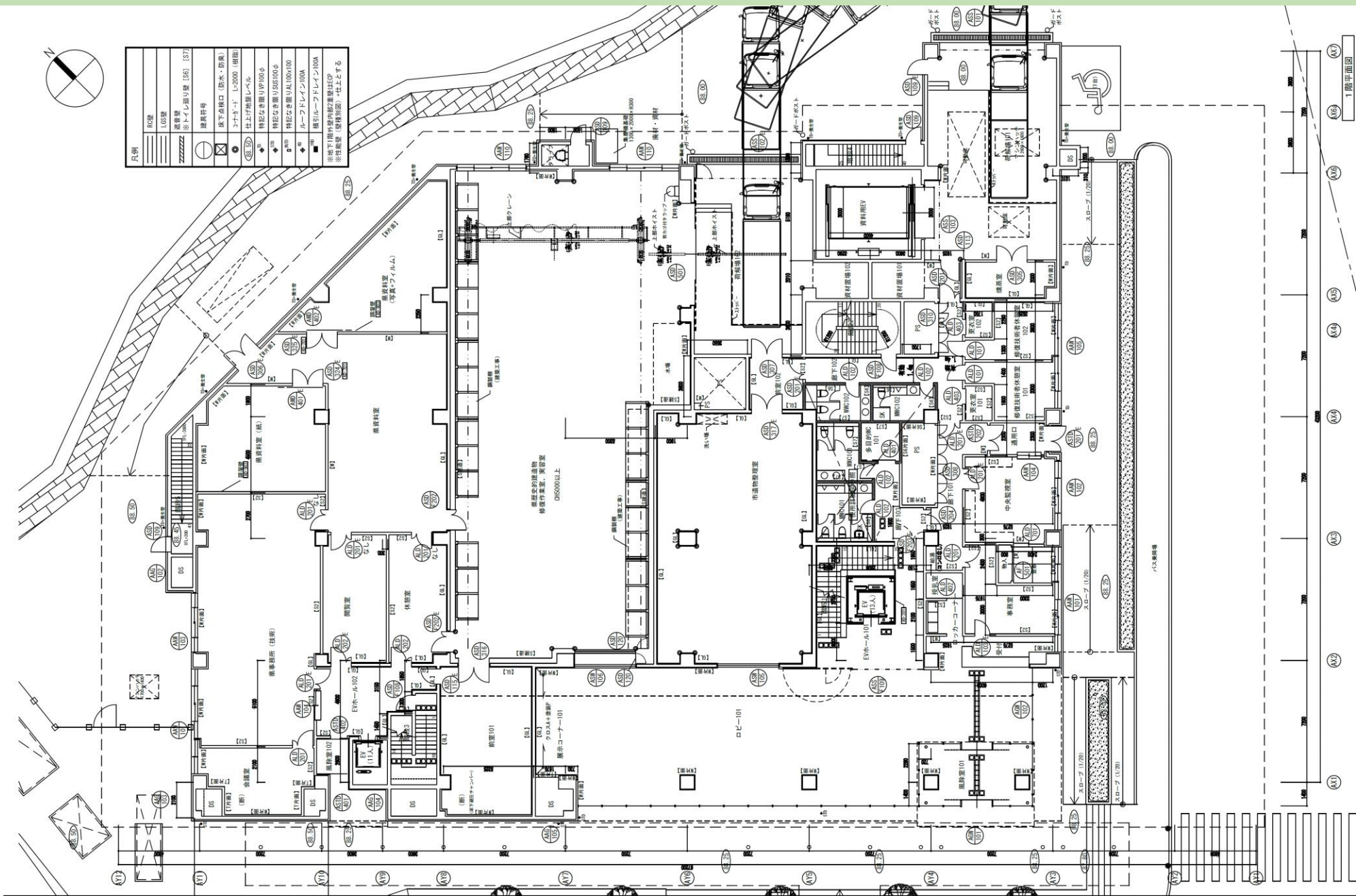
■位置図・平面図 (4)文化財修復・展示棟 ①地下1階



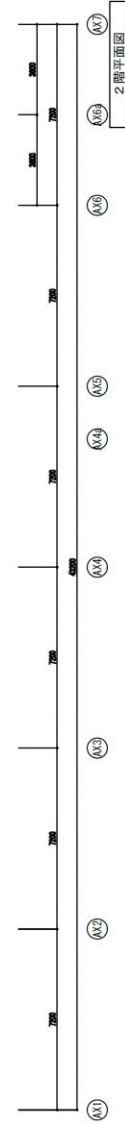
凡例	
	配管
	LS配管
	配管型
	※トイレ廻り壁 [S3] [S7]
	※排水口A (防水・防臭)
	※排水口B (防水・防臭)
	※排水口C (防水・防臭)
	※排水口D (防水・防臭)
	※排水口E (防水・防臭)
	※排水口F (防水・防臭)
	※排水口G (防水・防臭)
	※排水口H (防水・防臭)
	※排水口I (防水・防臭)
	※排水口J (防水・防臭)
	※排水口K (防水・防臭)
	※排水口L (防水・防臭)
	※排水口M (防水・防臭)
	※排水口N (防水・防臭)
	※排水口O (防水・防臭)
	※排水口P (防水・防臭)
	※排水口Q (防水・防臭)
	※排水口R (防水・防臭)
	※排水口S (防水・防臭)
	※排水口T (防水・防臭)
	※排水口U (防水・防臭)
	※排水口V (防水・防臭)
	※排水口W (防水・防臭)
	※排水口X (防水・防臭)
	※排水口Y (防水・防臭)
	※排水口Z (防水・防臭)



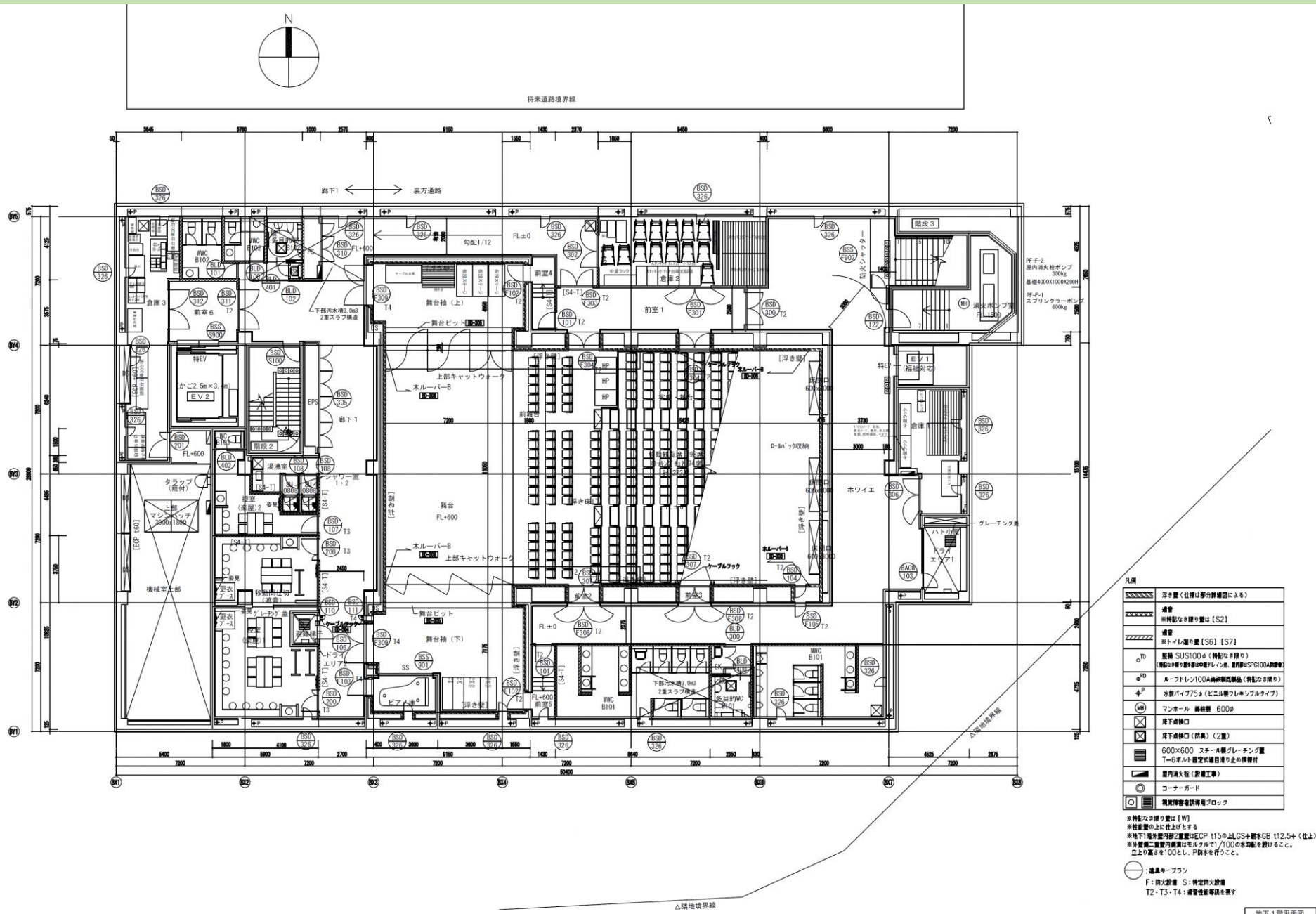
■位置図・平面図 (4)文化財修復・展示棟 ②1階



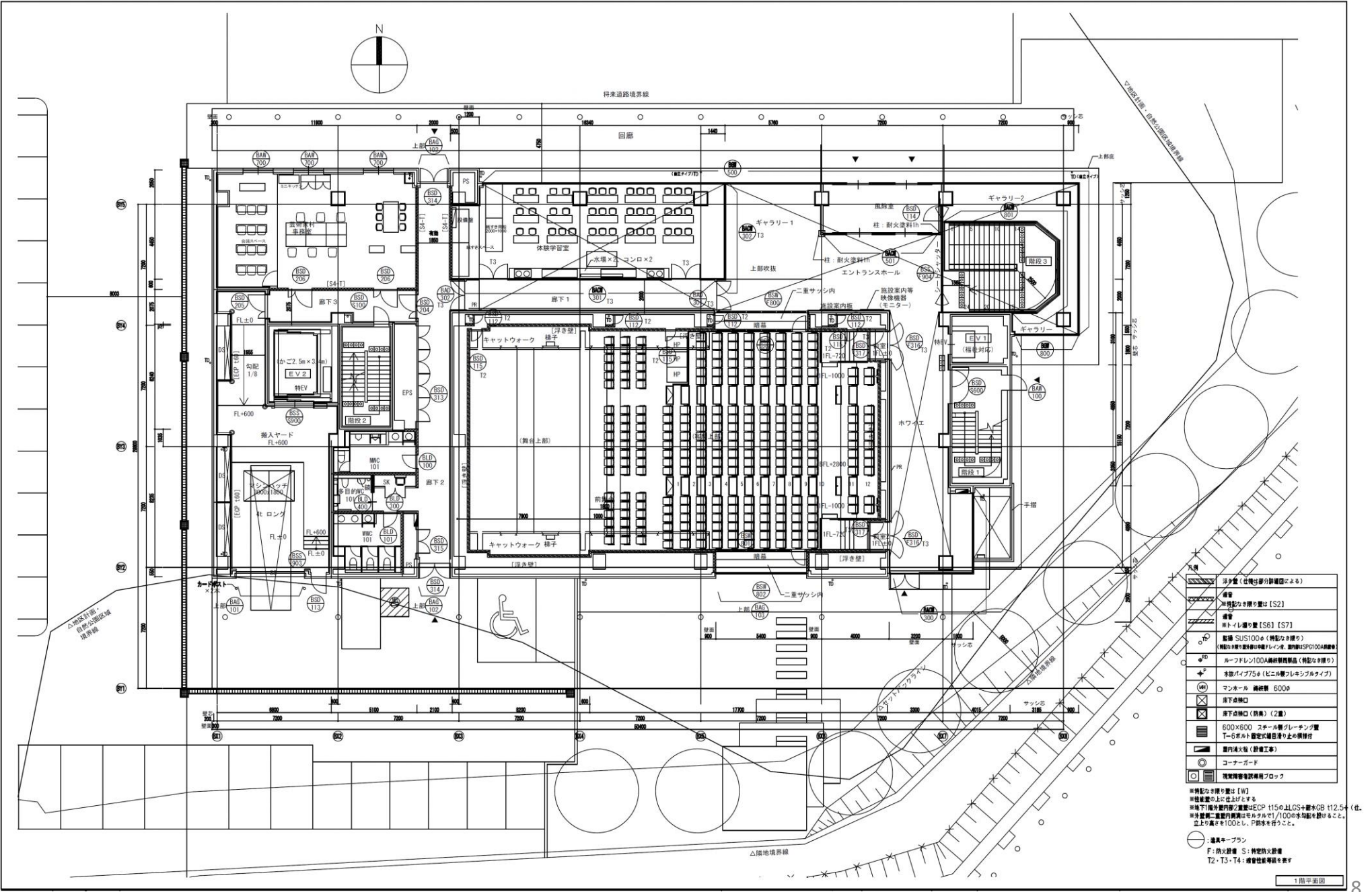
■位置図・平面図 (4)文化財修復・展示棟 ③2階



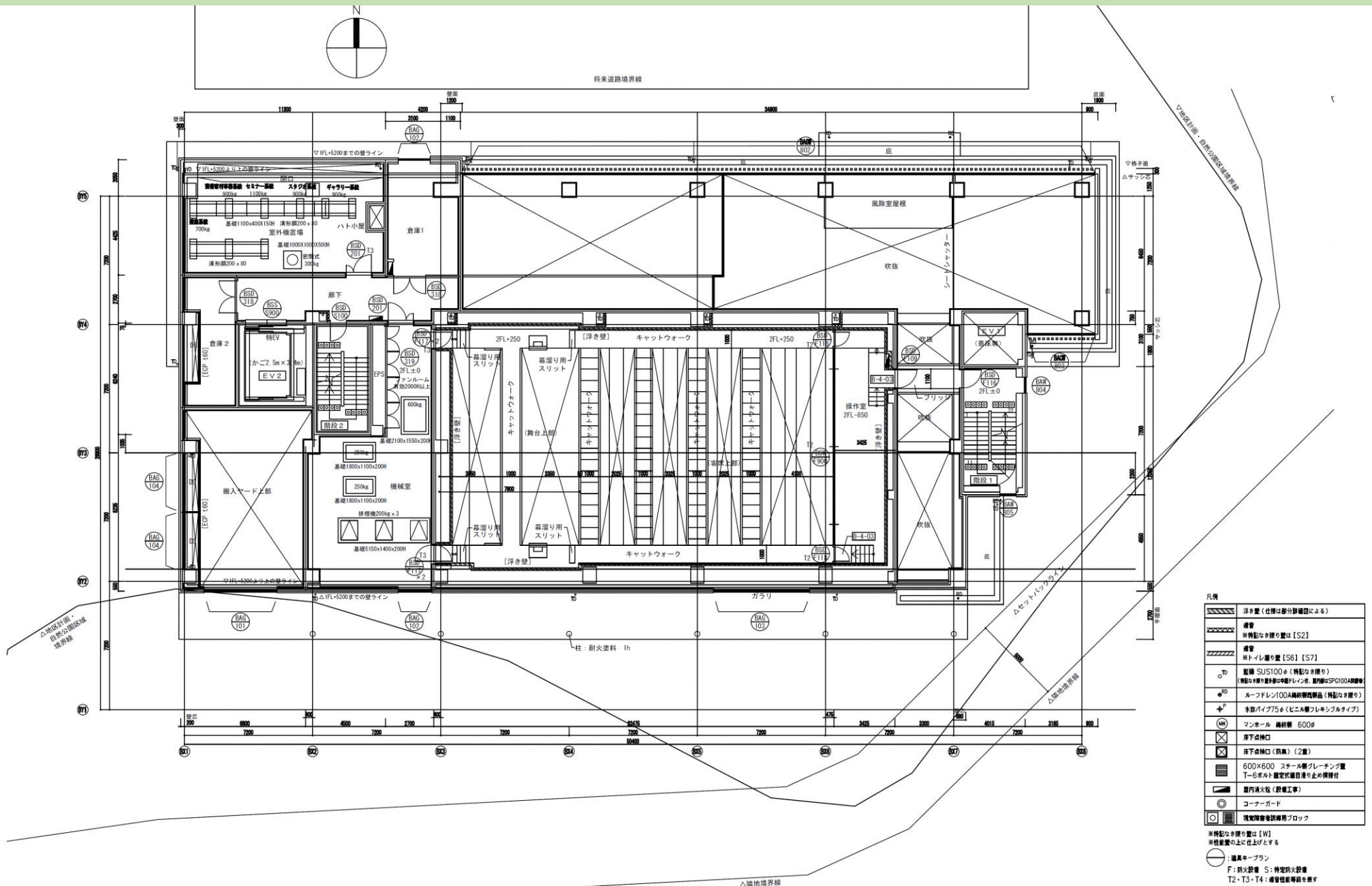
■位置図・平面図 (5)芸術文化体験棟 ①地下1階



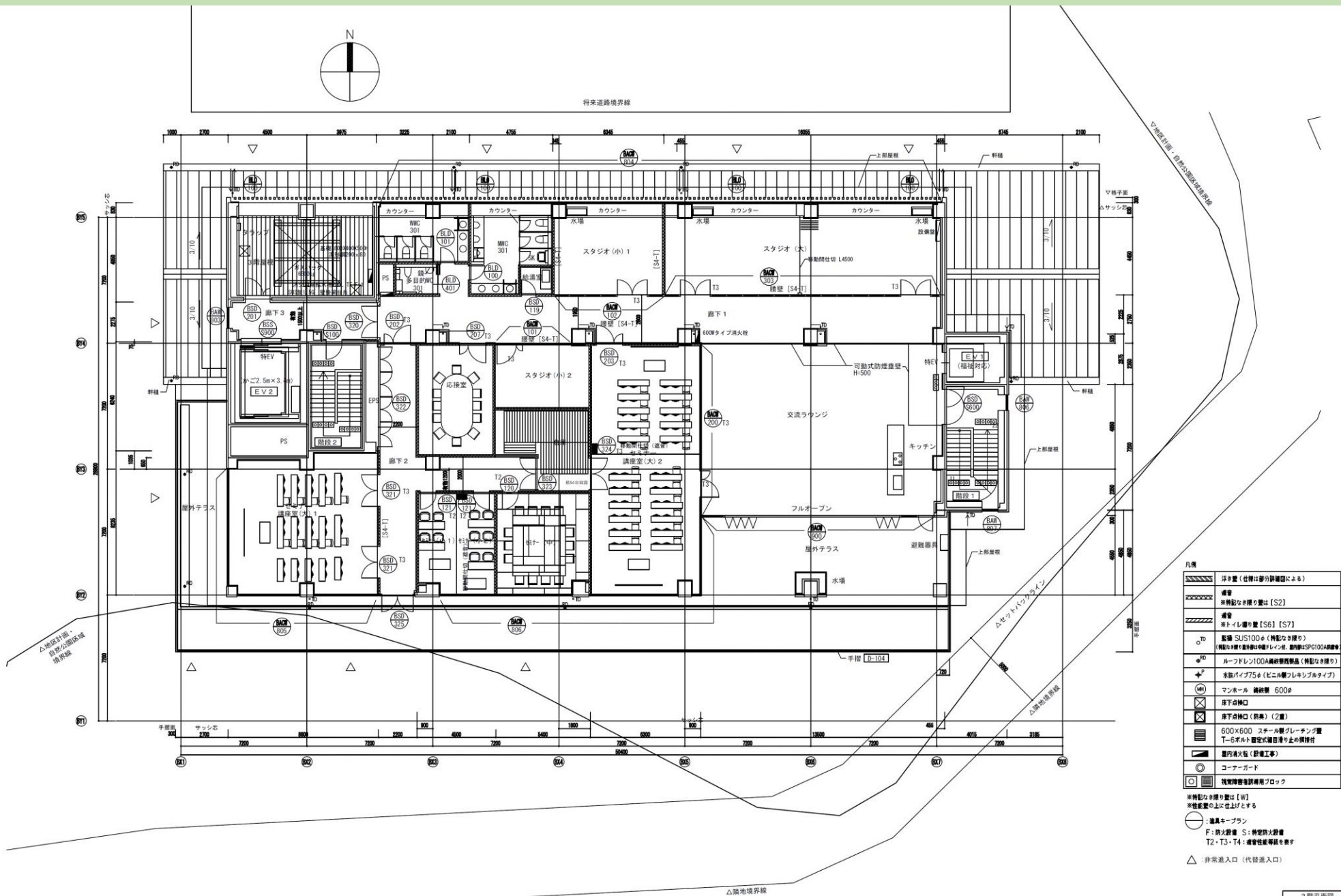
■位置図・平面図 (5) 芸術文化体験棟 ②1階



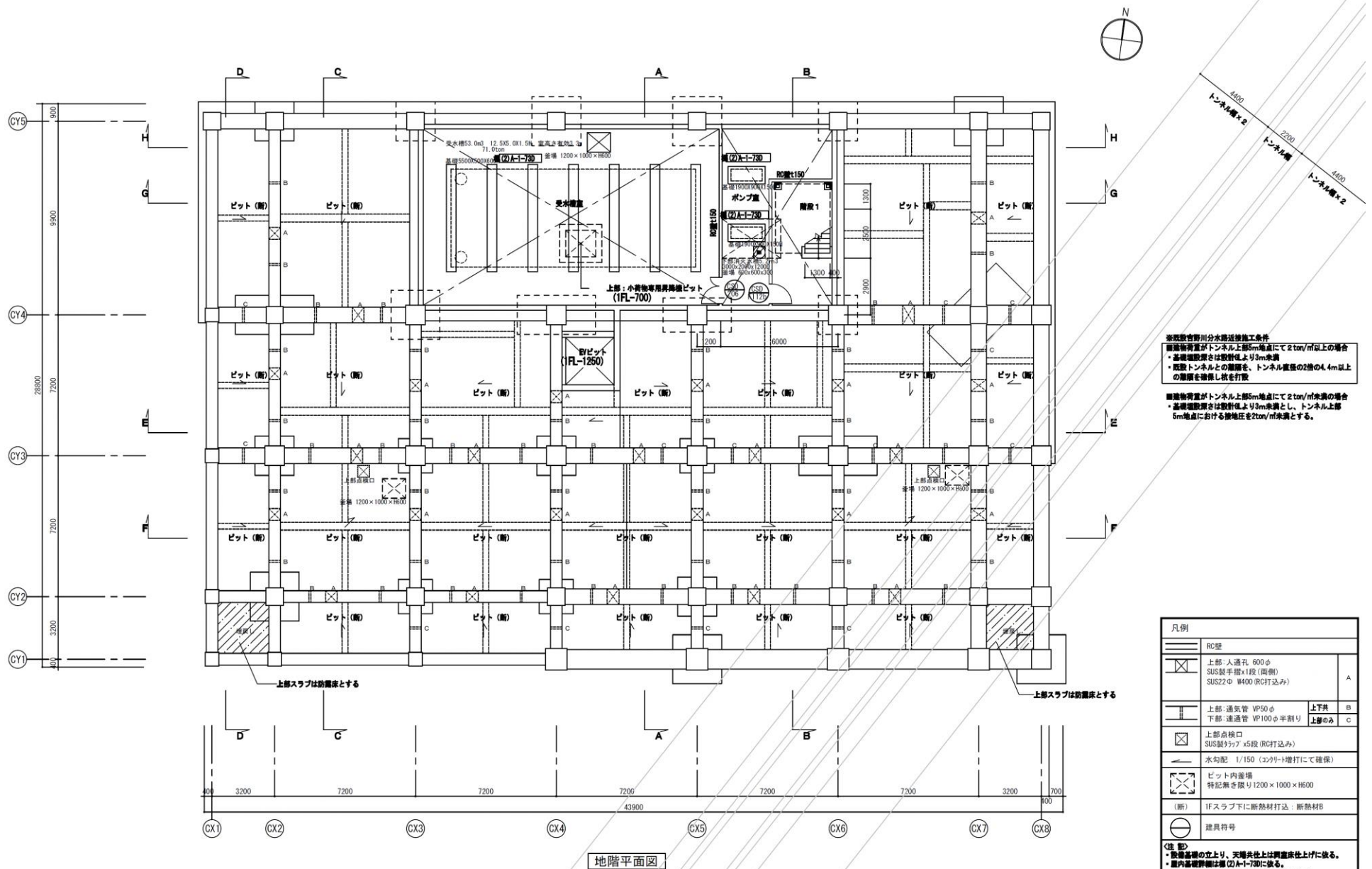
■位置図・平面図 (5) 芸術文化体験棟 ③2階



■位置図・平面図 (5) 芸術文化体験棟 ④3階



位置図・平面図 (6)交流にぎわい棟 ①地階

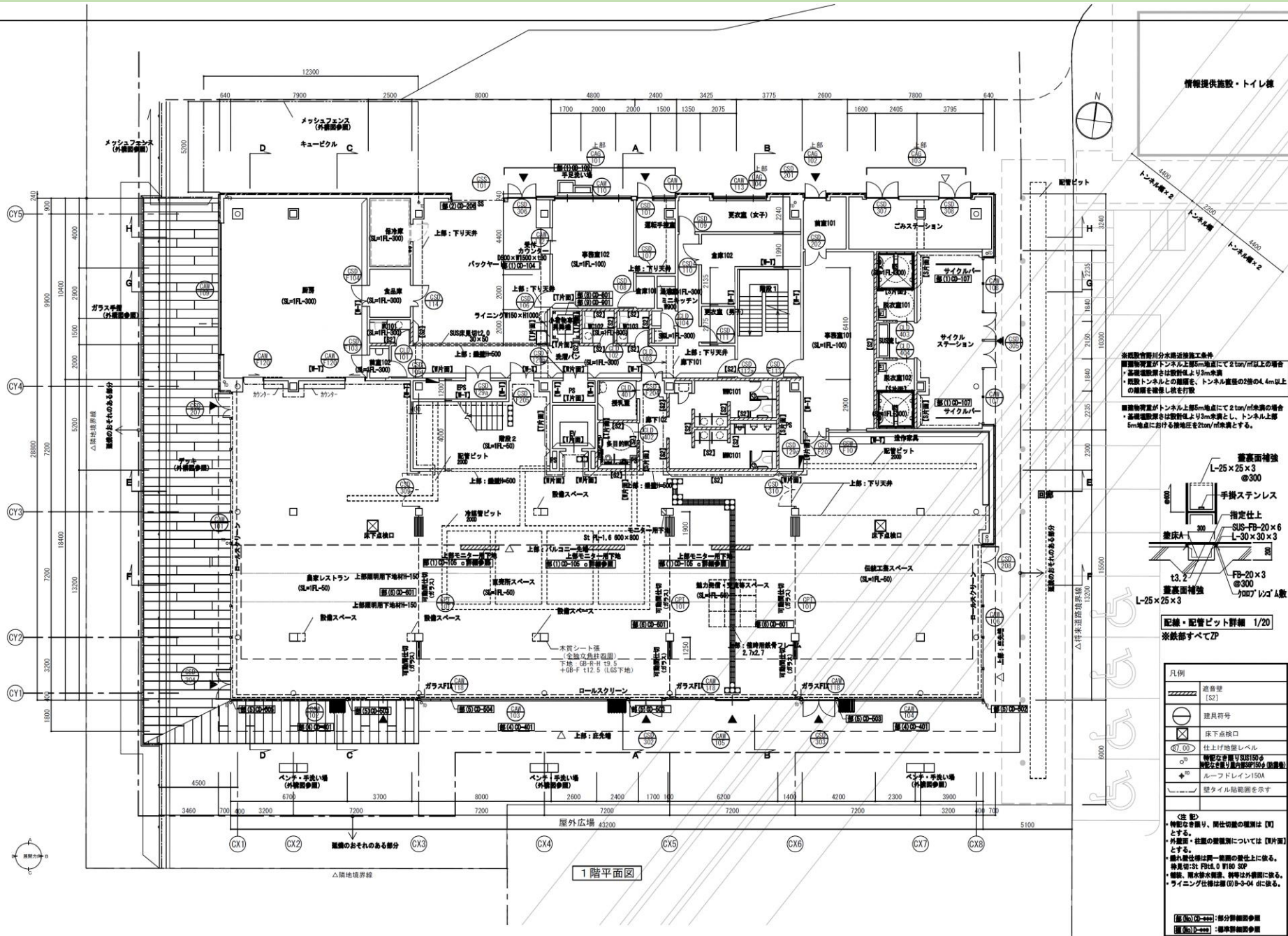


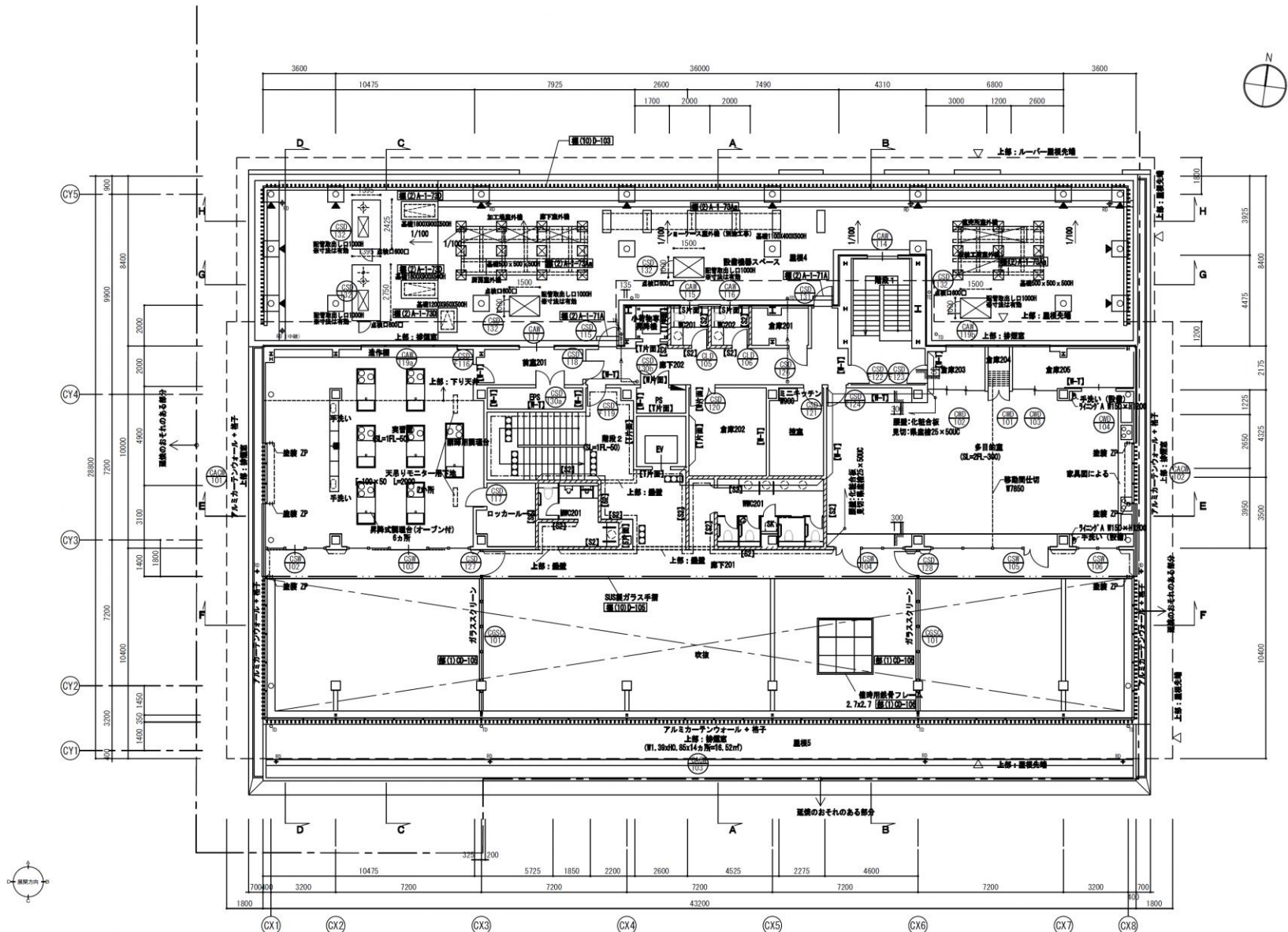
※取組む河川分水路近接施工条件
■敷地内トンネル上部5m地点にて2ton/㎡以上の場合は
・基礎埋設深さは設計値より3m未満
・既設トンネルとの間隔を、トンネル直下の2倍の4.4m以上の間隔を確保し杭を打設
■敷地内トンネル上部5m地点にて2ton/㎡未満の場合は
・基礎埋設深さは設計値より3m未満とし、トンネル上部5m地点における地耐力を2ton/㎡未満とする。

凡例	
	RC壁
	上部: 入通孔 600φ SUS製手摺×1段 (両側) SUS22φ W400 (RC打込み)
	上部: 通気管 VP50φ 下部: 通気管 VP100φ 半割り
	上部: 通気管 VP50φ 半割り SUS製タフ x5段 (RC打込み)
	水勾配 1/150 (コンクリート増打にて確保)
	ピット内設備 特記無き限り1200×1000×H600
	(断) IFスラブ下に断熱材打込: 断熱材B
	建具符号
【注】 ・設備設置の立上り、天端仕上げは両床仕上げに依る。 ・室内基礎埋設は(2)A-1-730に依る。 ・本圖に示さない地中策については構造図参照。 【図】(2)A-1-730: 部分詳細参照 【図】(2)A-1-730: 部分詳細参照	

地階平面図

■位置図・平面図 (6)交流にぎわい棟 ②1階

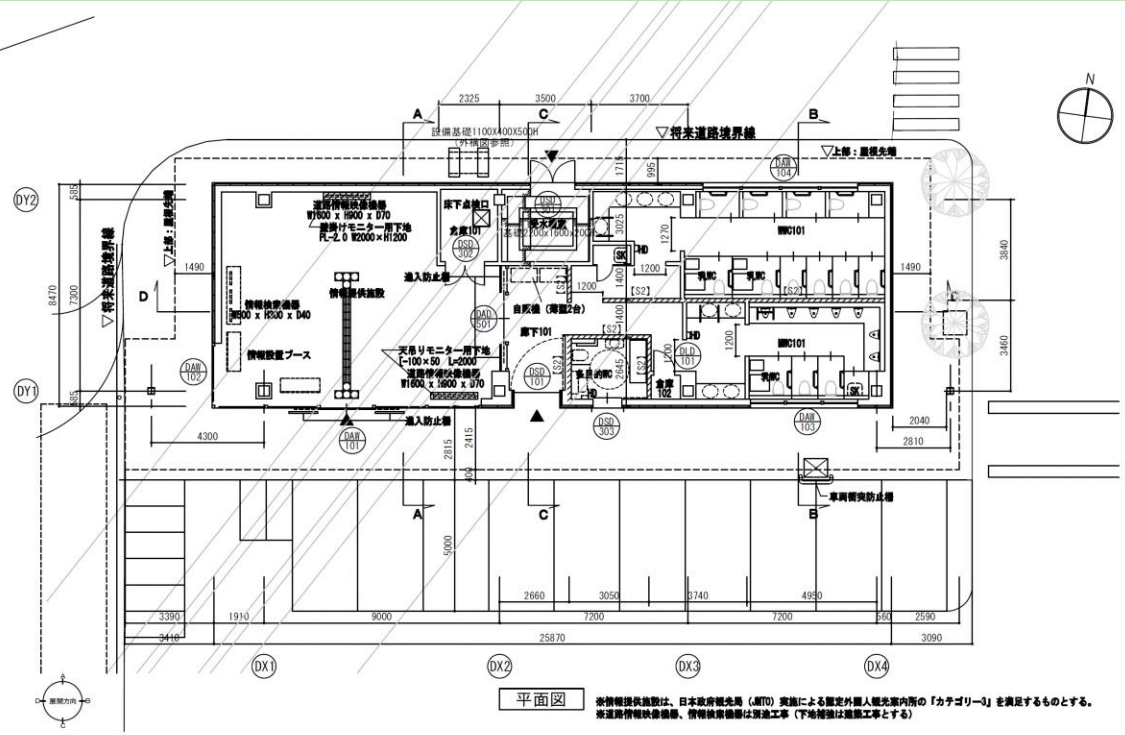




2階平面図

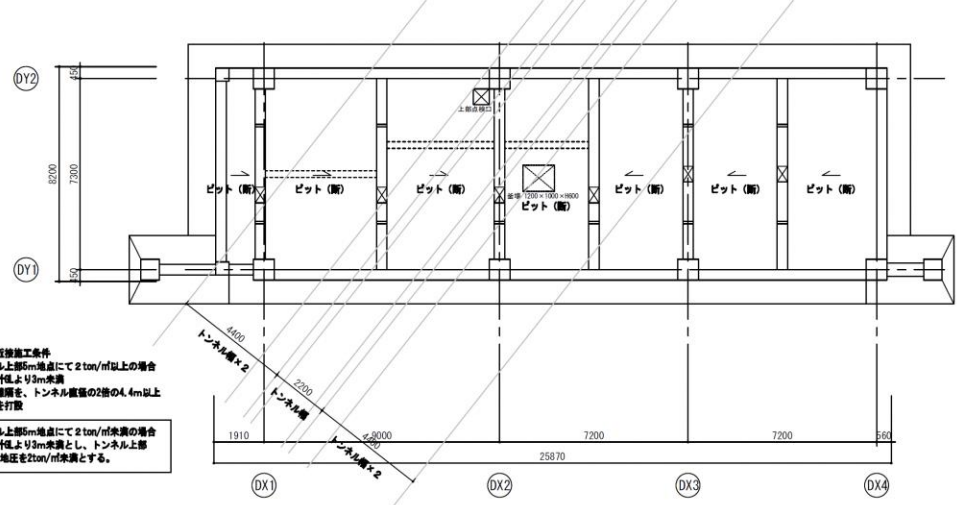
凡例	
	遮り壁 [S2]
	建具符号
	特記なき限りSUS150の 特記なき限り屋内用SUS150の(防塵用)
	ルーフドレイン150A (排水口)
	壁タイル貼範囲を示す
	展望箇所を示す 欄 (C) A-175
【注】	
・特記なき限り、同じ種類の欄は【注】とする。	
・外観面・柱間の観測については【見平面】とする。	
・最小観測点は同一観測の最上段に設置する。 特記なき限りF15.0 0 0100 30P	
・設備機器スペース 基礎の仕様は欄 (C) A-173a、A-173bに定める。	
・配管取出口仕様は欄 (C) A-173bに定める。	
・ライニング仕様は欄 (C) B-4-04に定める。	
欄 (C) B-4-04 : 部分詳細図参照	
欄 (C) B-4-04 : 部分詳細図参照	

位置図・平面図 (7)情報発信棟



凡例	
	遮音壁 [S2]
	建具符号
	床下点検口
	仕上げ地盤レベル
【注 意】 ・特記なき限り、開仕切壁の種別は【Ⅶ】とする。 ・外壁面・柱等の種別については【Ⅷ】とする。 ・舗装、雨水排水、樹等は外構図に依る。 ・基礎基礎の立上り、天吊り上は同床仕上げに依る。 ・外構 設備基礎は外構図参照のこと。	

平面図 ※情報提供施設は、日本政府観光局（JNTO）実施による認定外国人観光案内所の「カテゴリ-3」を満足するものとする。※道路情報映写機、情報映写機等は別途工事（下地情報は別途工事とする）



※既設古野用分水廊近接施工条件
■基礎設置がトンネル上部5m地点にて2ton/m以上の場合
・基礎設置は設計値より3m未満
・既設トンネルとの間隔を、トンネル直径の2倍の4.4m以上の間隔を確保し後を行
■基礎設置がトンネル上部5m地点にて2ton/m未満の場合
・基礎設置は設計値より3m未満とし、トンネル上部5m地点における接地圧を2ton/m未満とする。

凡例	
	RC壁
	上部：人通り 600φ SUS製手摺x1段（両側） SUS22φ W400（RC打込み）
	上部：通気管 VP50φ 下部：通気管 VP100φ半割り
	上部点検口 SUS製912 x5段（RC打込み）
	水勾配 1/150（コンクリート増打にて確保）
	ビット内空場 特記無き限り1200 x 1000 x H600
	（断） 1Fスラブ下に断熱材打込：断熱材B

（参考）
※日本政府観光局（JNTO）実施による認定外国人観光案内所の「カテゴリ-3」水準内容と本工事区分※ただし、水準にある項目として【施設・設備】について対応。他運営上による項目は除く。
①観光案内専用の対面式カウンター設置：建築工事
②客待ちのスペースがある：建築工事
③パンフレット等の情報提供ブース設置：別途
④職員用ネット接続PCの設置：別途（LAN：電気設備工事）
⑤インターネット接続PCが設置され、利用スペースがある：別途（LAN：電気設備工事）
⑥公衆無線LANの設置、案内所内での利用ができる：別途